【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 3 日（11 月 9 日午後)】出場選手コメント

◆男子 200m　T64　決勝

・井谷　俊介（SMBC 日興証券）

予選レースで課題に挙げたコーナーあけの加速をどう力を入れて走るべきかや 200m を走る上でのポイントを意識した。決勝ではうまくできたと思う。タイムは追い風参考になったが、200m というレースのなかで、すごく成長できたように思う。

今まではコーナーに向けて思いきり加速し、そこからは気持ちで加速させようとしていたが、体が力み、強張ってしまうところがある。そうではなく、脱力しながら、100%で走っていって、そこからもう一つギアをあげ、さらに加速していくという、昨日の晩からイメージした通りの走りが（決勝で）できたので、ちょっと武器になったかなと思う

ただ、海外勢の加速感も身をもって感じたので、そこはまだ自分の弱いところだと思う。

100m はメインに取り組んできた種目。海外勢には現状では力が及ばないかもしれないが、パリグランプリ後から取り組んできたことなどを意識し、納得のいく走りができれば、きっとタイムも出てくる。そのとき、いいポジションに行けていたらいい。自分に集中し、自分の走りをしたいです。

◆男子 400m　T46　決勝

・石田　駆（愛知学院大学）

一番出してはいけない 5 位の結果で、すごく悔しい気持ちでいっぱいです。前半の走りはリラックスして、後半に悪影響を与えないような走りができ、後半につなげたが、最後に抜かれてしまったのが現実。健常の頃の体力が戻り切っていないかもしれない。

自分がこの世界選手権の場に立っているのは不思議な感じがするが、このような大きな舞台の決勝で戦うこともでき、いい経験になったし、すごくうれしく思う。

全体的にリラックスして走ることもできたので、今回はいい走りだったと思う。修正するところは修正し、今後も頑張りたい。

◆男子砲丸投げ　F53　決勝
・大井　利江(北海道・東北パラ陸上競技協会)
（ファウルの判断が厳しく）ちょっと戸惑った。今まで、とられなかったファウルを取られた。今日は調子が良かったが、足が少しでも動いたらすべて取られた。他の選手も同じように取られたので、普段はみんな、8m 投げるけど、今日は 8m 超えがなかった。2 位かと思った試技も、ファウルを取られた。ファウルを気にして思ったように投げられなかった。文句言っても仕方がない。みんなが同じ条件だったのでね。

（大会最年長で、海外メディアから取材を受けた）
今の年齢まで、どういう秘訣でやってこれたのか、と聞かれたが、秘訣はやっぱり、家内のおかげですね。これからも、頑張りたい。

◆男子 800m　T54　決勝
・鈴木　朋樹(トヨタ自動車)
正直、何も言えない。スタートして、あれだけハイペースになるのは、今までの決勝レースではなかった。スタートを切ったときは成功したなと思い、次に位置取りを考えていたが、そこまでいかないぐらいスタートからのハイペースだったので、そこでちょっと頭がいっぱいいっぱいになった。余裕のないレース展開になり、結果的に決勝レースで最下位となった。

スタート力が具体的についてきているのは再認識できたので、あとは東京まで 1 年ないなかで持久力をつけることと、レースでの位置取りもまたもう一回勉強しなければいけない。

スタートに関しては 100%達成できたと思うが、150m 以降で、まだまだ自分の前には山があるなと思った。ゼロからトップスピードにもっていくまでを突き詰めないといけないし、さらに、マックスに達してからさらにキープしないといけない。ラストラップに入ってから先で自分の限界を越ええるくらいの域までいかないと、決勝レースで勝ちに行くことは絶対にありえないと思った。

スタート力がついて、世界の選手にやっと追いついたかなと思ったが、ラストラップに入って、ホームの直線に入ったときに、まだまだこんなに世界の選手の背中が遠いんだなと思った。タイムを出しにいくレースに近いようなレースが今回、決勝になったんじゃないかなと思う。

◆男子 400m　T52　決勝

・佐藤　友祈(WORLD-AC)　金メダル

最後の直線では、けっこう焦っていましたが、僕がアウトレーンの分、並ばれるくらいだったら、最後のところで巻き返せると自信があったので、落ち着いて対応できたと思う。予選と比べてスタートは体が動いてくれたと思ったが、後半はバックストレートに入るにつれて、アメリカ選手や伊藤選手が並んできて、身体や動きが硬くなって反応が鈍くなったかなと思った。

（伊藤選手に先行されたが）伊藤選手は北京、ロンドンとメダルを獲得され、それだけのポテンシャルは十分あるなと感じていたので、しっかり準備して対応できたと思う

決勝でも緊張感はやばかった。でも、集中できてしっかりゾーンに入ることができた久しぶりにレースをやって、陸上をやって気持ちいい、楽しいと思いました。

東京パラの内定がかかった世界パラという注目度の高いレースで、僕のなかで燃えるものがあった。競り合えてゴールするのは、とてもエキサイティングでしした。

（パラ前にタイトル獲得）

世界パラのタイトルという意味では自信になるが、パラリンピックのタイトルという意味では、まだマーティン選手が持っているままなので、そこはチャレンジャーとして東京パラで奪いに行くことに挑戦したいと思います。

◆伊藤　智也(バイエル薬品)　銀メダル

スタートから全開で、逃げのレースプランでした。内側はマーティン選手だけで、あとのライバルは皆、右（外レーン）にいたので、とにかく追って追って、並んだら、逃げて、逃げてのつもりでした。でも、（佐藤選手に）捕まってから、（彼の）逃げられることの速さ。全開で行きましたが、３００ｍあたりで電池が切れました。

（終盤は疲労から）腕が壊れてきたので、あとは佐藤選手と自分の間に、マーティン選手を入れないことだけを考えました。佐藤選手は底力が全然違いました。

風の強いなかで、１分００秒６のタイム。メダルを取った北京時代よりも今の自分のほうが越えているかもしれない。身体を作るために、とにかく走り込みをしました。
強さの秘密は、関わっていただいた数の多さ。これがパワーの源です。そういう責任を感じられるような競技人生があることが嬉しいですね。

（新調した）マシンについては修正しないといけない点がいくつかある。フィッティングはまだ６０％ほどだと感じたので、伸びしろはまだまだあると思う。（東京までの）あと１０カ月、楽しみです。

◆上与那原寛和(SMBC 日興証券)
（一人失格で４着）
あ、そうなんですか？　気持ちは先にいっているので・・・。ラッキーとしか言いようがないですが、レースは少し力不足。４着を狙っていたが、４着でいけなかったのが残念。今、（通過と）聞いたので、ちょっと安心しました。最初から全力で行くしかないので、行けるところまで全力で行こうと思っていた。２００m 入る前くらいですぐに抜かれて、追っていったが、ちょっとスピードが思ったようには乗らなかった。大外の９レーンで、慣れていなかったので、今回はいい経験もできてよかった。（ドバイに入ってから痛めた左肩は）いい先生とトレーナーがいるので、もう大丈夫です。よかったです。

昨日は体が重かったが、今日はローラーでアップを長い時間かけてじっくりやってきたので、その割には体が結構動いてくれたと思います。

（東京パラでは）もう少し順位をあげに行きたいです。頑張っていきたいです。日本選手３名が代表は、素晴らしいことだと思います。

（コメント協力：星野恭子）